

エゾマツ



No.67 2004. 1. 26

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目次

1. 巻頭言 2004年の初春を迎えて 会長 川 端 功 治 (1)
2. 会員の声 (3)
3. 野付半島自然観察会を終えて 間 瀬 秀 継 (8)
4. 平山の紹介 小 栗 法 韶 (10)
5. 花になりたい 簾 内 道 夫 (12)
6. 宗谷の春 三 崎 篤 (14)
7. 子どもたちと歩いた野幌森林公園 (16)
8. 本の紹介 (18)
9. 観察会研修会情報 (20)
10. 編集後記 (21)

〔巻頭言〕

2004年の初春を迎えて

会長 川端 功治

会友の皆様方には、ご家族お揃いで新年を迎えられたことと拝察し、心からお祝い申し上げます。

思い出されるのは前年の凄まじい災害です。次々と襲い来る台風と地震の度重なる災害の罹災者に対しては慰めようも無い悲しみを覚えました。報道された航空写真を丹念に眺めて見ると流失した木材が橋桁を破壊し、道路をえぐり、溢れ出た濁流に乗って民家を襲う姿はまさしく、鬼畜にでもなったような暴れ方をして、恐怖のどん底に陥れました。

この流れ出た木材を詳細に眺めると、根の付いた立木が多い場所があるのに気がつきます。斜面を流下する水が土や石礫を巻き込み、大量の土石流となって生立木を押し倒し、引き抜き流出したものであり、これは斜面の裾を道路や家屋の建築等で切り取られた場所に多く発生する現象です。

それから端正な樹冠で根が切断されたものは、明らかに造林木の撫育間伐木であり本来ならば林外に搬出して加工利用すべきところ、外国材の低価格に圧倒され採算が執れず、山元に放棄されたものが濁流に巻き込まれて流失したものでありましょう。これらは緑化運動の一環として人類が自然に手を加えた意外なしっぺ返しでありましょう。良かれとして勝手な思い上がりの人間の行動が天災に拍車をかける人災になったことを、しっかりと見据えなければならないと思います。この事に関係があるのかどうか、国際的に勇名高きグリーンピース（国際的環境保護団体）が旭川に乗り込んできて、造林をテーマに行動すると云う。海洋生態系の保護等を重点目標に、非暴力直接行動を運動方針とする。本部はアムステルダム。）は捕鯨船に乗り込み、捕獲用具に飛びつき、操業を

妨害するなど有名（悪名？）であるが、造林と云う地味な仕事をどんなスタイルでアピールする積もりなのか見当もつかない。流れてくる噂では日本人ただ一人のメンバーが故郷の旭川でグリーンピースが行動するよう誘致運動中のことで格別気にすることも無いと思うがどうか。

国土保全と国土緑化は車の両輪であって、天災を人災によって被害を拡大させてはならない。一人一人が細心の注意をはらい、横の連絡を密にして施業しなければならぬ国民的な義務があります。

会友各位には益々健康に留意され自然愛護運動に活躍されること期待致します。

役員（理事）改選期にあたって

平成16年は役員（理事）の改選期にあたっていて、総会において新しい役員（理事）を選出することになっています。また、地方幹事については役員会にて推薦することになっています。

この改選期にあたって、会員の皆様の声を反映させるため、ボラレン協議会の企画や運営に積極的に関わっていただける役員（理事）の推薦をお願いします。自薦、他薦どちらでもかまいません。これらの名簿等の整理は現三役にておこない総会に図り選出していきたいと考えています。

本会の活性化に向けて、会員の皆様のご協力をお願いいたします。推薦については事務局にて受け付けます。

事務局 007-0811 札幌市東区東苗穂11条2丁目14-18 田村

(TEL 011-791-0127)

会員の声

江別市 阿部 徹

現在は、広報誌「エゾマツ」を読むことだけが会とのつながりになっていて、毎回楽しみにしています。

さて、自然あっての人間ですが、日本では毎年生活が便利になりすぎて、今子ども達は、自然の変化すらも認識しにくくなっている様に感じます。知識でなく、生の体験として自然につつまれることが重要だと思います。

「物より思い出」です。その意味で、自然と人間をつなぐ森の案内人の役割は、ますます大切であります。観察会にもどれるのを楽しみにしています。

釧路市 佐々木 仁吉

(釧路湿原自然再生協議会会員)

釧路湿原の破壊された自然を取り戻そうと今年1月施行、国の三省と住民一体で発足した釧路湿原自然再生協議会 会長辻井達一道環境財団理事長の会合が開かれた。

素案では自然再生。自然に対する悪影響の取り除き。自然が何らかの力で回復していくことを手助けすること。目標、20年前の湿原状態に戻し、湿原の減少・劣化を防ぎ人為により消失した湿原を再生させる。

施策。蛇行河川への復元。野生生物生育環境の保全森林再生。今後は旧川復元。土砂流入防止。森林水環境の普及等、来年5月迄にまとめて、7月実施計画協議に入る。皆様の協力をお願い。



札幌市西区 鎌田 健治

趣味で登山をしていますが、最近気になることがあります。登山道で会っても挨拶をしないくせに、頂上まであと何キロなどと聞く。

頂上でこちらが食事中に写真を取ってくださいとせがむ。お花畑は盗掘の後が目立つなど、登山道から見える場所にはティッシュペーパーの残骸。おそらく花摘みの産物でしょう。

残念です。30年前の山々は本当に山を愛する人達（岳人）で登山を静かに楽しんでいました。今はツアー登山、すなわち商業主義にのせられているみたいですね。

札幌市厚別区 小 湊 修子

去年はボラレンの活動をすっかりご無沙汰してしまいましたが、唯一6月にボラレンの女性5名と北大キャンパスを散策したことが思い出されます。

農学部横のハルニレの木に生えているズミの樹上木を珍しがったり、花木園ではカツラとシダレカツラのペアに微笑みがわき、バイカウツギ、エゴノキ、ズミなど満開の白い花に感嘆。

モデルバーンでは大きな葉をひっぱりながら図鑑を開き、はじめてキササゲに出会う。大野池では絶滅危惧種のミクリにいつまでも消え去らなようにと祈り、最後は理学部裏のオオバアサガラに歓声をあげ大樹から垂れ下がる白い花をこぼれ散らしてしまうほどなど、楽しい一日でした。

北大キャンパスの植物は、自生、栽培、帰化と種類が多く見どころがあふれていて、興味深いところです。今年はできる限り歩きたいと思っています。

静寂の 小道白辛樹 花吹雪



北広島市 我妻 庄三

私もボランティア・レンジャーの会員になり、8年が過ぎ、これまで諸先輩方々のご指導を戴き、何とか続けられましたので、今後ご指導の程、願います。

昨年の秋に、小学校の野外学習の勉強会に参加し、感じたことは、子供たちが森林内の植物に興味や関心を持たれたと思います。

また、子供たちからの手紙を読み、植物のいろいろなことがわかり、楽しかったと書いてあったので、今後学校から依頼を受けたら引き受けて、実施するとよいと思います。

伊達市 田安 隆

伊達市に永住を決めた昨年12月中旬、地元の探鳥会に参加し北電火発近くの田んぼで約百羽近くのマガンが羽を休めている群生を観察しました。北海道においてマガンの越冬の北限である伊達での越冬が始まったのです。その勇壮な自然は言葉では言いつくせません。

北海道でのマガンの越冬は温暖化に原因しているのではないかと全国の関係団体からも注目を浴びていると言われています。北海道で希少種として促えられているマガンを守らなければならないと心改にした思いでした。

クマゲラ、エゾフクロウ、ヤマゲラの揃いぶみ

札幌市東区 田村 允 郁

昨年、12月18日(木)野幌森林公園での観察会がおこなわれ、8名のボラレンメンバーがガイドをしました。天気予報では前日からあまり良い天候にならない予報でしたが、当日はまずまずの天気にもぐまれました。なおかつ根雪が遅かった札幌地方のせいもあり、雪の少ない快適な観察会コースを歩くことができました。

開拓記念館からふれあい交流館までのコースの途中には、12月の森にふさわし

い赤い果実を残したナナカマド、ツルウメモドキ、アカミノヤドリギ等があちこちで観察できました。この時期まだ餌が豊富なのか野鳥がこれらの果実に群がっていないのが、ちょっと残念でもありました。雪が少ないので、ドライフラワー状になったメマツヨイグサ、ノラニンジン、オオウバユリの果穂が倒れずに残っていて種子を取り出し観察でき、各グループは楽しい観察会となりました。

野鳥の観察も期待しての散策でしたが、思ったほど姿を見せてはくれませんでした。冬の間での定番、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ハシブトカラ、ヤマガラ等やコゲラ、アカゲラを見ることもでき、満足してゴールのふれあい交流館で散会となりました。

自家用車を開拓記念館の駐車場に置いていたので、参加者の数人とボラレンのメンバーの熊野美子さん、高松文雄さんと連れ立って、瑞穂連絡線経由の帰り道を辿りました。開拓記念館の建物が見える頃は正午をとっくに過ぎていたので空腹を感じていました。参加者とも別れ、昼食を記念館内の食堂で取ろうと入り口に行くと本日は午後休館との表示がありガッカリ。しかたなく駐車場に向かう途中、熊野さんから「瑞穂の池近くにエゾフクロウが出ているので観察に行こう」との提案。

「うーん。腹がへっているが、まあいいか」ということで、熊野さん、高松さんともども開拓の村横を通るコースへと入って行きました。

天候の変化でしょうか、風はないのですが空から今にも雪がきそうな気配です。

雪がすくないので散策する人たちが結構いるのでしょうか、それともエゾフクロウの情報でこの道を辿る人がいるのか、きちんと踏み跡ができた雪道をおいていきました。野鳥の声も聞こえず静まりかえった森のあちこちに顔をだしている常緑のツルシキミ、エゾユズリハ、フッキソウ、ハイイヌガヤを横目に見ながら11月の観察会でエゾフクロウを見ることができた場所へと急ぎました。

このコースを使って11月9日の観察会では参加者一同、ゆっくりエゾフクロウを観察できましたが、その場所の大木のウロには今日ではもぬけの空、ガッカリの雰囲気三人に漂います。

と、その時、すぐそばの立ち枯れのトドマツの幹に黒い姿、しきりと樹皮をはがしています。熊野さんが感激の小声で「クマゲラ！」。確かにクマゲラです。我々にはまったく無関心でバリバリと樹皮をはがしています。その樹皮が雪面にバサッバサッと落ちる音がします。豪快な動作に三人はしばし無言で観察。頭のベレーの赤が小さくメスです。公園内でクマゲラの鳴き声や食痕を見たりはしていますが、姿を見たのは初めてです。

クマゲラが幹の裏側に隠れたとき、無意識にウロの方をみると、なんと、そこにエゾフクロウがかわいい目をしてこちらを見えています。人の気配を察し姿をみせたのでしょうか。サービス精神おう盛なエゾフクロウにまたまた三人は感激。

さらに、森の奥から大型の鳥の気配がします。「クマゲラがつがいで見られるのか！」。と思ったとき、その姿は私たちの頭上を越え沢側の木にとまりました。

黄色味がかかった緑色の美しい姿、それはヤマゲラでした。後頭部の赤色からオスと確認しました。

クマゲラ、エゾフクロウ、ヤマゲラの揃いぶみに、しばし時を忘れてこの三羽の姿に見ほれていました。クマゲラは相変わらず、すさまじい勢いで樹皮を剥がしています。日頃の行いのよい三人だからこそ(?)こんな幸運な機会にでくわしたのでしょうか。ただ、こういう時に限ってデジカメを持たなかったことだけが残念。

「腹がへっているから」などと熊野さんの提案を断らなくてよかった。そんなことを思いながら、コースを引き返したのでした。



野付半島自然観察会を終えて

標茶町 間瀬 秀 継

日 時 平成15年8月31日 10時開始 12時半終了

参加人数 15人

天 候 晴れ

◆野付半島について

今回は根室、知床両半島と国後島に挟まれた根室海峡にエビの背を丸めた様な地形をした野付半島で自然観察会を行った。半島は、長さ27km、幅は狭い所では30m、広いところでも150mという日本一大きな砂嘴（さし）である。この砂嘴の堆積物は砂と砂礫からなるものであるが、調査から標津町北部から知床半島にかけて分布している安山岩が長い年月かけて堆積したものであることがわかっている。地表近くは約200年前の雄阿寒岳の火山灰、その下は約2200年前の矢白別火山灰とされている。そして砂嘴は今も変化を続けている。数年前発行の冊子では根室海峡の風蓮湖にある砂嘴が一番沈降の進んでいるところで、年平均にして7から8mm程度あるといわれている。しかし、このデータは古く、知床半島にかけての各河川に砂防ダムが建設されている現在では海峡に流れ込む砂が減っているとの指摘があり、沈降はさらに進んでいることも考えられる。

野付半島も同様に以前あったトドマツの立ち枯れ（トドワラ）、またミズナラの立ち枯れ（ナラワラ）が絶えず流れる時間にゆったりとしながらも確実に変化を刻んでいる最中であり、その自然景観は訪れる者に自然の力の大きさを実感させるものである。

◆自然観察会報告

当日は、風は強いものの快晴で国後島、知床連山を遠くに見渡すという観察会日に恵まれた。周辺市町の方の多数参加をいただき、夏の終わりを惜しむように咲

く植物を見ながらの楽しい観察会となった。コースは昨年出来たネイチャーセンターからトドワラへの遊歩道を通り、トドワラの木道を周遊する4.2 kmの道を2時間半かけて歩いた。咲いていたのは遊歩道ではハマナス、ツリガネニンジン、ノコギリソウ、エゾカワラナデシコ、ハナイカリ、ハマフウロウ、ヒロハクサフジ、ナミキソウ、シオガマギク、オトギリソウ、ヤマハハコ、キンミズヒキの他、トドワラの木道付近では塩湿地の植物であるオオシバナ、アッケシソウ、ウミミドリ、エゾツルキンバイ、ホソバハマアカザ、マルバトウキ、エゾオグルマ、カセンソウ等があり砂嘴の豊かな植生に出会う事ができた。観察会のネイチャーゲームでは身近な野菜と野付半島に咲く植物が同じ仲間である事に驚きつつ、10年以上前に訪れたことがある方は、トドワラの立ち枯れがもっと多かったなど砂嘴が痩せている様を実感するなど自然について興味をもって接する事が出来たのではないかと思う。

また、野付半島は野鳥の宝庫でもあり特別天然記念物のタンチョウヅルをはじめ天然記念物のコクガンやヒシクイなど貴重な水鳥の楽園でもある。是非次回の観察会にはこちらにも目を向けたものをやってみたいと思う。

最後に研修部をはじめ、前日より札幌他遠隔地より参加していただいた協議会の皆様の協力を厚く感謝し、お礼申し上げます。

お詫び

間瀬秀継氏よりメールで事務局へ原稿が届いていたのですが、事務局のパソコンのトラブルでしばらく稼働していませんでした。その結果メールでお届け頂いた野付半島自然観察会の原稿が前回の号で掲載できませんでしたことをお詫び申し上げます

平山の紹介

白滝村 小栗 法韶

石狩川を挟んで表大雪の層雲峡と対峙して、北大雪群の平山がある。白滝村市街から20分程で登山口に着く。登山道はよく手入れされており、湧別川の源流支湧別川の左岸に沿って付けられている。

登りはじめはエゾマツ、アカエゾマツ、トドマツの原生林で巨木が生えている。樹下には、ミヤマハンショウズル、マイズルソウ、クサソテツ、サンカヨウ、ゴゼンタチバナ、フッキソウ、ショウジョウバカマ等が見られる。

行雲の滝、冷涼の滝を越えるとダケカンバ林帯に入り、やがて第一雪渓が現われる。雪渓を横切ると源流の水流がなくなり、ガレ場となる。ここにナキウサギが生息している。この上、1000mが第二雪渓で、溪間にはアオノツガザクラ、エゾノリュウキンカ、ガンコウラン、ジムカデ、エゾコザクラ等が見られ、登山道沿いには、エゾウサギギク、ウコンウツギが目につく。

チシマザクラ、タカネナナカマドの灌木帯を通り過ぎ岩礫が目立つようになると、イワブクロ、チシマフウロウ、メアカンキンバイ、マルバシモツケ等高山植物の数が増えてくると、広い稜線の端、分岐（地元の呼称 標高1711m）に着く。このケルンを左折し20分程歩いて平山（標高1771m）の頂上に到着する。所要時間凡そ3時間である。反対側のガレには風穴がある。

頂上からの眺めはすばらしい。目の前の切り立った山のなかにニセイカウシュツペがあり、表大雪群の奥の方にトムラウシ山、斜里岳がみえ、その左間近に武華岳、武利岳が双子のように見られる。さらに左には佐呂間湖が見え、手塩岳がみえその前方にチトカニウシ山、天狗岳、有明山、その前方に比麻良山そして幅広い稜線となり、ここには数多くの高山植物が自生しており、お花畑を形成している。

平山の頂上には、エゾオヤマノエンドウ、ヨツバシオガマが見られ、途中のハイマツ林の樹下にはエゾイソツツジ、キバナシャクナゲ、コケモモ、ガンコウラン等が見られる。稜線平坦地には、ミネズオウ、エゾツツジ、イワヒゲ、チョウノスケ、

メアカンキンバイ、クロスゲ、コマクサ、ミネカエデ、ミネヤナギ、ミヤマハンノキ、特にウラシマツツジの紅葉期（9月10日～15日）には山一面が深紅に染まり、遠目にも美しい稜線模様となる。

平成15年に地元の山岳会が、平山から～分岐～比麻良山～分三岳～二の沢分岐～有明山～天狗岳に至る縦走コースを切り開いた。所要時間6時間強で、登り時間を含めるとかなり強行軍となるけれども、尾根歩きを楽しむ向きにはお勧めと思います。

毎年かかさないうちで平山に登っていると植物の植生の変化が気になります。その何点かを書くと、ナキウサギの数が減るとガレ場が見えないくらいに植物が繁茂する。

絶滅した植物も種を播くと短期間で数が増える。ツツジ科植物にまつわりついているコケが生育を抑制しているようだ。頂上部の植物がなくなりそうだ。登山道を整備すると植物の生育がよくなり見本園になる。やっぱり盗掘の跡がある。以上のことから見えてくるのは、一度人間が自然に踏み込んだら、よい状態に保つよう手入れを怠らないことである。

昭和32年に北大の館脇教授が平山の高山植物127種を同定しており、花の数の多いこと、360度展望のすばらしい平山にぜひお出で下さい。



花になりたい

札幌市豊平区 篠内道夫

楽しかったその日の森の観察会の終わりに、幼稚園児の女の子に大きくなったら何になりたいの？と聞くと、しばらく間おいてはっきりと「花になりたいです」との言葉に、周りの大人のみんなが、やさしい子供のこころに感動しました。

札幌市白旗山都市環境林「ふれあいの森で」春から秋まで市民の自然観察案内に携わっています。毎週日曜日午後1時から行われる森の定期観察会には多くの市民が訪れます。その中でこころに残るお話しを紹介したいと思います。

5年ほど前の夏のある日、森の観察会のお客様は、おじいちゃんと一緒に小学一年の坊や、母さんと一緒に幼稚園児年長組の少女、中年の大人3名、合わせて7名を約二時間の予定で散策コースを案内しました。森の中ではきれいな花を咲き、オオバユリは一本の茎に20個もの花をつけています。キビタキ、クロツグミなどの声も森に響きます。

散策路を歩きながらおじさんこれなーに？と口達者に次ぎつぎ質問をするのは少女でした。子供は地表の小さな昆虫や草花にも目に止め不思議に思います。その質問と一緒に大人が感心をし観察会が盛り上がります。いろいろな質問に私が説明しますと「おじさんは何でも知っているのね、物知りなのね！」と少女がほめ、おだてのうまさに散策の一同大笑いのとてもなごやかに自然観察を楽しみました。

森林浴と森の草花に見とれて、湿原の小径に架かる木道をとおり最初の出発点に戻りました。散会にあたり参加者のみんながとても満足し、楽しかった森は素晴らしいとの感想が交わされたので、このまま大人の感想だけでの散会は何かしら惜しまれたので、小学一年の坊やに「大きくなったら何になりたいの？」と私が聞きますと、「まだ決めていない」とのことでした。散策のみんながそれはそうと笑顔を交わしました。話題にぎやかに今日の主役の幼稚園児の少女にも同じく「お嬢ちゃんは大きくなったら何になりたいの？」と聞きますとしばらく間をおいてはっきりと「花になりたいです」と。

「花になりたいです」の言葉に周りの大人のみんなが感動しました。私はその子の目線の高さまでかがみ目を見ながら、なんとやさしく素晴らしいことでしょうとほめました。二時間ほどの森の散策で見て聞いて感じた自然に感動し、それを素直に受け止めた感性に頼もしい未来を感じました。一緒の大人も同じようにその子に目をやりながら口々に「やあー素晴らしい」と感心の声がしきりでした。

振り返って自分の子供の頃を思い出しました。昭和16年(1941年)12月8日に太平洋戦争が始まりました。昭和9年生まれの自分が小学校一年の時です。その戦争も多くの貴い命を失い、昭和20年8月15日(1945年)日本の敗戦で終わりました。小学校5年のとても暑い夏の日でした。あの頃は大きくなったら何になりたいと聞かれたとき、みんなが「兵隊さん」と得意げに答えていたと思います。私があるようなこと話し観察会を終えようとしますと、小学一年生の孫さん連れの男の方が「自分も昭和9年生まれです。あの頃は男の子は兵隊さん、女の子は看護婦さんと決まっていた」と同じ経験を話されました。

森の観察会で、心のやさしい女の子の大きくなったら「花になりたい」との言葉の感動を、日本はもとより世界の子供たちの明い未来のために、平和の輪に広がってほしいと願っています。また、豊かな心を育くみ情操教育にも役立っている森の観察会等に汗流すボラ連の活動は、大いに社会貢献されていると思います。

表題の「花になりたい」にちなみ、ご存じの沖縄の歌「花」が平和を願ったものと聞きましたので、CDを図書館から借りて正月休みに鑑賞しました。

混乱するイラクの一日も早い平和と復興を念願し、歌の題名と歌詞の一番を記させていただきました。話の飛躍は現在の世界情勢に鑑みお許しください。

花～すべての人の心に花を～ FLOWERS FOR YOUR HEART

川は流れて どこどこ行くの

人も流れて どこどこ行くの

そんな流れが つくころには

花として 花として 咲かせてあげたい

泣きなさい 笑いなさい

いつの日か いつの日か 花をさかそうよ

宗谷の春

札幌市北区 三崎 篤

冬の真ん中（冬至）を過ぎ一月たった。寒さはまだまだ続くが日に日に暮れ時が遅くなり、春を含んだような雪が降るようになると、ようやく冬も下り坂に向かっていると実感する。

榊原郁恵の歌に「♪北に住む人は幸せ 春を迎える喜びを 誰より強く感じるができるから」との一節がある。

厳しい冬を体験する北海道の人にとっては本州に住む人より春を待つ気持ちは強いし道南に住む人より宗谷に住む人のほうがはるかに強いと思われる。

中国に「九九消寒」という慣わしがあったそうで、これは冬至の日に八十一の梅の花を書き、次の日から天気に応じて色をつけていく、全部の梅に色が塗られたときが、本格的な春の訪れ。これも春をひたすら待つ表れではないだろうか。

昭和 51 年から約 3 年間稚内に住んだ。十勝で育った身でも宗谷の冬は厳しかった。最低気温はマイナス 10 度を超えることはあまり無いが、終日マイナス気温。つまり真冬日が続き、シベリア風？の寒風が肌を刺す。さらに流氷が接岸したときなどはいつそう寒さが増す。

今朝は、やけにしばれるなどと思ったら海岸を氷が覆っていた。流氷である。

遙かアムールの蓮氷が押し合い、へし合いし氷塊となって沿海州を南下、宗谷の海に辿り着いたのだ。

「オホーツクの猟師たちは、流氷の来ることは事前にわかるらしい。大きなうねりとなって砂浜に打ち付ける波の音が突然静かになるからだという。漁師の人たちは舟を陸に上げ、波の音が消えた夜は、水道の水を落とす。流氷の到来で気温は 4~5 度下がるからだ。

いよいよ本格的な寒さの到来とばかり、シャツを一枚多く着込んだり、暖房を高めたりする」と、竹田津実氏のエッセーにあった。

歳時記では流氷は春の季語になっているが、ここでは「冬の使者」、本格的な寒さの到来で、冬の季語にしてもらいたいくらいである。

海岸に押し寄せ、敷き詰められた流氷は、多くの贈り物を浜に届けてくれる。

流氷に含まれている植物性プランクトンを食するエビ、アミ、カニこれを狙ってタラ、コマイ、カレイなどの魚類、さらにこれを追ってトド、アザラシなどの海獣やオオワシ、オジロワシなどの猛禽類たちである。

また、海の妖精クリオネ（ハダカカメガイ）も流氷とともに訪れる北の海の珍客といえよう。

流氷は北の海を豊かにする反面、コンブ漁に被害をもたらす。長く居座ることによって、岩礁のコンブを根こそぎ剥ぎ取り、収穫を奪ってしまう。だから何日も居座られると観光の目玉どころではない。特にオホーツクは、リシリコンブ、ラウスコンブ、ナガコンブなどコンブの主産地であり痛手がおおきい。

しかし、自然の仕組みは良くしたもので、コンブと一緒にほかの海藻類をも剥ぎ取ってきれいにしてくれる、ここに新たなコンブの胞子が根付き良質なコンブが育つといわれている。いわば、流氷は、岩礁の掃除屋の役目も担っているようだ。

こうして北からの贈り物を運んできた白い世界が青黒い海に変わると「海明け」である。

漁業の人はピッカピッカに塗りなおした舟を繰って沖へ向かう。浜に活気が戻り、それが宗谷の春だ。

「♪流氷とけて 春風吹いて ハマナスゆれる」この歌を口ずさみ、宗谷の春をひたすら待ち望んだ当時のことをふと思い出した。



子どもたちと歩いた野幌森林公園

—小学校教育へのボランティア活動—

昨年、江別市立第二小学校より、野幌森林公園で子どもたちのガイドをしてほしいとの依頼を受けました。私たちボランティア・レンジャー協議会は色々な人達とかわりながら活動して行くことが重要と考え依頼を受けることにしました。

学校では「総合的な学習」の一環として野幌森林公園で活動したいとの希望でした。「総合的な学習」とは小学校では2002年度より授業として実施されていて、その目的と内容は、子どもが自ら課題を見つけ、自ら考え、判断し、問題を解決する力を育てることにあり、そして学び方や考え方を身に付けていくことにあるといわれています。このねらいを踏まえ、各学校では地域や学校の特徴を生かし、国際理解、情報、福祉・健康、環境などの学習プログラムを作成し実践しています。

江別市立第二小学校では、野幌森林公園が近いこともあり、子どもたちに自然環境の学習の場として森林公園を設定したことを聞きました。

該当の学年は3年生であり、子ども達の人数が100名を越えることもあって、ボランティア・レンジャーのメンバー8名に依頼し、10月1日(水)大沢口をスタートしました。

おだやかな天候の中、およそ3時間、元気な子どもたちと秋の森を楽しみました。子どもたちの疑問や感想は、私たち大人にとっては大変新鮮に感じました。以下は子どもたちからの礼状の一部です。

K. Y (男)

森林公園のことを教えてくれてありがとうございました。森林公園には木ばかりでなく、動物やこん虫や鳥やきのこがいて、みんななかよくしていると教えてくれました。ビックリしたことは、トリカブトにはどくがあるといわれたことです。あるいていて、おもしろかったです。

Y. T (男)

野っぼろげんし林をあんないしてくれてどうもありがとうございます。ぼくは、野っぼろげんし林でいろいろなキノコを見つけました。いろいろな木や植物を教えてください。今度時間があつたらまた教えてください。

T. O (女)

この前は森林公園をあんないしてくれてありがとうございます。とてもたのしかったです。わたしが、黒いネズミみたいな生き物を見つけ、友だちとはなしをしていたら、おくらせてしまいました。だけどすぐおいつきました。また、いきたいです。

M. S (女)

私は教えてもらったことで一番気に入ったことは、しん葉じゅは冬でも葉が落ちないことです。さいしょは冬はどの木も葉が落ちると思っていたのに、たまたまそれを聞いてびっくりしました。それから、オオウバユリは、めが出て花がさくまで10年ぐらいかかることもびっくりしたけど、ほいく園のころパラパラしているたねをひろってパラパラしていましたが、花がさくとはしりませんでした。また、いっしょに歩いていろいろなことを教えてもらいたいです。

H. M (男)

あるいてくれて、ありがとうございます。キノコのしゅるい、木のしゅるいを教えてくれてありがとうございます。あと鳥のしゅるいも教えてくださいね。今度はこん虫のことも教えてくださいね。

S. T (女)

森林公園をあんないしてくれてありがとうございます。オオウバユリには、たねがいっぱいあることがわかりました。オシロイシメジというきのこもありました。今度時間があつたらまたおねがいします。



養老孟司 著

いちばん大事なこと

—養老教授の環境論—

集英社新書 2003. 11. 19発行

定価 660円+税

私たち人間社会が排出してきた二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンといった温室効果ガスによって、地球の温暖化と気候変動が進行してしていることがさまざまな観点から言われています。温暖化がすすむとシベリアなどの永久凍土が急速に溶け出し、それに含まれている膨大な量のメタンが大気中に放出される危険性があります。メタンは二酸化炭素の20倍以上の温室効果があり、急激に温暖化が進みます。

すでに世界各国に影響が出ていて、日本でもその兆候が指摘されています。環境省が発表した「地球温暖化の日本への影響2001」によると、

- ・北海道の高山植物の減少と木本植物分布の拡大。
- ・チョウ、ガ、トンボ、セミの分布域の北上と南限での絶滅増加。
- ・ソメイヨシノの開花がここ5年で5日早まる。
- ・マガンの越冬地が北海道にまで拡大。
- ・熱帯産の魚が大阪湾に出現。

等々が報告されています。

二酸化炭素をはじめ温室効果ガスについては、1997年「京都議定書」が採択され、その内容は先進国に排出削減を義務づけることでした。ところが、アメリカのブッシュ大統領は地球温暖化の原因は温室効果ガスであるとの説を否定し、京都議定書からの離脱を表明してしまいました。科学的論拠に理解を示さないばかりか耳を貸さないアメリカの姿勢は、今問題になっているイラク戦争の大義と結果そしてその後の混乱状況が重なって見えます。

昨年ベストセラーになった、養老孟司著「バカの壁」によると、人は自ら壁を作

って知りたくないこと、自分に不都合なことには耳をかそうとしない。「話せば分かる」と説明しても相手に通じないことがおきる。それが「バカの壁」だと説いています。京都議定書といいイラク問題といい、アメリカは「バカの壁」を築いてしまったのでしょうか。

本著「いちばん大事なことー養老教授の環境論ー」を読むと私たちは都合のよい環境保全論の「バカの壁」を築いているような気がします。著者は「人と自然の間に巨大な壁ができてしまった」、そして「環境問題こそ最大の政治問題」と主張しています。その理由を「……永田町という政治の世界でなら、構造改革やデフレが大問題かもしれない。しかしそういったことがらは、環境問題に比べれば、さざ波のようなものともいえる。……千年とはいわないが、このまま百年後に人間が生き延びていけるのか。そういう環境問題こそ、真の政治問題だと思う。いいかえれば、環境問題が政治の真の基準、モノサシなのである……」と述べています。

二酸化炭素の90年時点の国別排出比率のデータを見ると、アメリカ36.1%、欧州連合(EU) 24.2%、日本8.5%になっています。世界人口の約25%の先進国が、3分の2もの二酸化炭素を排出している現実には、地球を温暖化させてしまった責任があります。各国が「環境問題を最大の政治問題」として取り組めるようになると世界の状況が一変するのではないのでしょうか。

註：地球温暖化と温室効果ガス

地球の気温は、空気によって保たれています。空気の中でも特に気温を保つ効果が高いのが温室効果ガスです。この温室効果ガスが増え始めたため、地球の気温が上がってきています。このことを地球温暖化といいます。温室効果ガスのなかでも二酸化炭素は地球温暖化の原因の6割を占め、最も大きな影響を与えています。

観察会研修会 情報

観察会予定(1月~3月)

◎冬の森の観察会

2月8日(日) 10:00~14:30 (下見 2月7日)

集合場所 野幌森林公園 大沢口 ふれあい交流館

◎早春の森の観察会

3月14日(日) 10:00~13:00 (下見 3月13日)

集合場所 野幌森林公園 大沢口 ふれあい交流館

小樽支部観察会

2月14日(土) 天狗山~オコパチ川 天狗ゴンドラ乗り場 9:30

3月27日(土) 塩谷丸山 JR塩谷駅駐車場 8:30

(2月14日・3月27日共にカンジギ歩きです)

申し込み問い合わせ TEL 0134-27-1701 (小樽支部代表 北原宅)

◆平成16年度の観察会について

平成16年度の観察会の計画については、研修部を中心に計画案を作成中ですが次号68号(3月下旬発行予定)に掲載予定です。また、サークル活動を引き続き活発化させていく予定ですので、会員各位で発信する活動計画をお持ちの方は事務局(011-791-0127 咄)へ御連絡ください。

会員の参加協力で観察会を成功させましょう!

編集後記

◆年が明け10～12日の連休が過ぎると、道内を吹雪が襲いました。北国の冬の厳しさを知らされた思いがしますが、雪や寒さに負けず森を訪れ、雪上に残された動物たちの逞しい痕跡を観察してみましょう。

◆平成15年度の活動も残すところ僅かとなりました、次年度へ向けての構想と共に役員改選の年にあたります。会員の声を反映させるためにも、会員の意見、提案、感想を事務局に是非お寄せください。

◆「会員の声」を読ませてもらうと、会員の皆さんの活動の様子が行間から伝わってきます。「会員の声」を通して情報交流を今後も進めたいと思います。ご協力お願いします。

◆前号(2003.10.24発行)の表紙のナンバーがNo.65となっていますが、No.66の間違いです。訂正してお詫びいたします。

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会報誌「エゾマツ」No.67 2004.1.26 発行
発行責任者 川端 功 治

表紙絵 エゾフクロウ

冬期間、樹洞などの場所に長期間とどまることがあります。フクロウは日本では4亜種に分かれています。私たちが見る北海道にいるフクロウはエゾフクロウで、他の亜種より羽の色が全般的に灰色で日本の亜種中一番淡色です。

大きな耳を持ち、目のまわりがハート形をして平板になっています。これを「顔盤」といいます。